

保健体育科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（水） 6 校時
 対 象：中学部 1 年生 A グループ 12 名
 場 所：体育館
 授業者：〇〇 〇〇（T1）
 〇〇 〇 （T2）

1 題材名「ポートボール ～パスの数だけ深まる絆～」

2 生徒の実態

本学習グループは、1 年生男子 12 名で構成されている。それぞれの生徒の本題材に関わる実態については、次の通りである。

A	自閉スペクトラム症、知的障がい
	【アセスメント】 田中ビネー S-M 社会生活能力検査
	【体カテスト】 ハンドボール投げ 1m、握力 13kg、上体起こし 0 回、長座体前屈 18cm、 反復横とび 22 点、20m シャトルラン 14 回、立ち幅とび 100cm、50m 走 13.8 秒 ・ 時間を与えると自分で判断してパスやシュートができる。バウンドパスやゆっくりしたパスをキャッチできる。 ・ 18m ジグザグドリブル 38 秒 ・ 集団競技は苦手であるが、見通しがもてる活動は参加しやすい。視覚的な支援が有効である。
B	男子 自閉スペクトラム症
	【アセスメント】 S-M 社会生活能力検査
	【体カテスト】 ハンドボール投げ 4m、握力 14kg、上体起こし 0 回、長座体前屈 32cm、 反復横とび 18 点、20m シャトルラン 9 回、立ち幅とび 50cm、50m 走 16.1 秒 ・ オーバーヘッドパスができる。バウンドパスやゆっくりしたパスをキャッチできる。 ・ 18m ジグザグドリブル 41 秒 ・ 軽い運動を好む。集団競技は苦手であるが、簡単なルールは理解することができる。
C	男子 自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障がい、知的障がい
	【アセスメント】 WISC-IV
	【体カテスト】 ハンドボール投げ 9m、握力 17kg、上体起こし 20 回、長座体前屈 35cm、 反復横とび 42 点、20m シャトルラン 51 回、立ち幅とび 155cm、50m 走 9.4 秒 ・ 両手でセットシュートができる。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・ 18m ジグザグドリブル 15 秒 ・ 球技は得意である。簡単な戦術を考えることができ、促されると他者に伝えることができる。
D	男子 軽度知的障がい
	【アセスメント】 S-M 社会生活能力検査 社会生活年齢：
	【体カテスト】 ハンドボール投げ 10m、握力 19kg、上体起こし 16 回、長座体前屈 35cm、 反復横とび 34 点、20m シャトルラン 15 回、立ち幅とび 130cm、50m 走 10.9 秒 ・ 両手でセットシュートができる。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・ 18m ジグザグドリブル 19 秒 ・ バasketball が得意である。簡単な戦術を考えることができる。

E	男子 自閉スペクトラム症
	【アセスメント】S-M社会生活能力検査
	【体カテスト】ハンドボール投げ5m、握力18kg、上体起こし未実施、長座体前屈23cm、反復横とび30点、20mシャトルラン24回、立ち幅とび125cm、50m走9.6秒 ・両手でセットシュートができる。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル20秒 ・簡単な戦術を考えたり、自分の意見を他者に伝えたりすることができる。
F	男子 自閉スペクトラム症、知的障がい
	【アセスメント】S-M社会生活能力検査
	【体カテスト】ハンドボール投げ4m、握力15kg、上体起こし4回、長座体前屈26cm、反復横とび19点、20mシャトルラン10回、立ち幅とび67cm、50m走12.1秒 ・両手で横投げや下投げができる。バウンドパスやゆっくりしたパスであればキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル17秒（ドリブルごとに保持） ・達成できそうな活動であればルールを守ることができる。簡単な戦術を考えることができる。
G	男子 自閉スペクトラム症
	【アセスメント】S-M社会生活能力検査
	【体カテスト】ハンドボール投げ3m、握力9kg、上体起こし14回、長座体前屈40cm、反復横とび13点、20mシャトルラン15回、立ち幅とび53cm、50m走13.2秒 ・数メートルの距離であれば片手や両手で上投げができる。飛んでくるボールに怖さがあるが、バウンドパスやゆっくりしたパスであればキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル37秒 ・どの活動でも先頭や一番に達成することを好む。
H	男子 自閉スペクトラム症
	【アセスメント】S-M社会生活能力検査
	【体カテスト】ハンドボール投げ6m、握力17kg、上体起こし19回、長座体前屈26cm、反復横とび44点、20mシャトルラン43回、立ち幅とび145cm、50m走9.7秒 ・上投げができるが、下投げのコントロールの良さに自信をもっている。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル33秒 ・困っている友だちに対して率先して助けようとする。他者の言動に影響を受けやすい。
I	男子 自閉スペクトラム症
	【アセスメント】S-M社会生活能力検査
	【体カテスト】ハンドボール投げ5m、握力17kg、上体起こし7回、長座体前屈未実施、反復横とび25点、20mシャトルラン9回、立ち幅とび未実施、50m走未実施 ・両手上投げができるが、下手投げでシュートを狙う。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル往路のみ45秒 ・不安な時や気分が落ち込むこともあるが、意欲の高い時は、自発的に運動に参加できる。
	男子 自閉スペクトラム症、知的障がい、注意欠陥多動障がい
	【アセスメント】S-M社会生活能力検査

J	【体力テスト】ハンドボール投げ7m、握力21kg、上体起こし5回、長座体前屈38cm、 反復横とび40点、20mシャトルラン13回、立ち幅とび112cm、50m走11.8秒 ・両手でセットシュートができる。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・ジグザグドリブル18m30秒 ・ルールが理解できたり、見通しがもてたりする活動は、積極的に参加できる。
	男子 知的障がい 【アセスメント】S-M社会生活能力検査
K	【体力テスト】ハンドボール投げ2m、握力11kg、上体起こし0回、長座体前屈40cm、 反復横とび18点、20mシャトルラン10回、立ち幅とび50cm、50m走12.0秒 ・数メートルの距離であてば上投げができる。バウンドパスやゆっくりしたパスであればキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル70秒 ・視覚的な支援があれば、ルールの理解がしやすい。どの運動にも意欲的に参加することができる。
	男子 知的障がい 【アセスメント】S-M社会生活能力検査
L	【体力テスト】ハンドボール投げ9m、握力24kg、上体起こし17回、長座体前屈42cm、 反復横とび29点、20mシャトルラン60回、立ち幅とび145cm、50m走8.4秒 ・両手でセットシュートができる。ノーバウンドのパスをキャッチできる。 ・18mジグザグドリブル17秒 ・簡単な戦術を考えることができる。リーダーシップがあり、率先して活動ができる。勝敗にこだわる傾向がある。

3 題材設定の理由

(1) 生徒観

中学部1年生の体育は2グループで構成されている。本グループの生徒は特別支援学校学習指導要領の保健体育科における目標の段階としては、1段階が5名、2段階が7名と考えられる。体育の授業が好きな生徒が多いものの、新体力テストの結果では、柔軟性以外の体力において県の平均値を大きく下回っていた。そこで基礎体力をバランスよく向上できるように、これまでの題材では集団行動や体づくり運動、しっぽ取りや鬼あそびなどのゲーム、シュートゲームやサッカーなどの球技、リレーやダンスなどに取り組んできた。先日行われた学校祭体育の部においては、体育の授業で取り組んできたラジオ体操、大玉転がし、リレー、ダンスの4種目や道具の準備・片付けといった役割においても学年の中心となって活躍することができ、授業の成果を発揮することができた。普段の授業においても、数分間継続して走ることが難しかった生徒がだんだんと継続して走ることができるようになったり、集団活動が苦手な生徒が活動に参加が困難だった生徒が、終始授業に参加することができるようになったりと良い変化が見られているところである。しかし、ゲーム性のある運動になると動き方がわからず消極的になる生徒、攻防中に口論してしまう生徒、成功にこだわるが故にサッカーボールを手で投げってしまう生徒など、課題を感じる場面も多い。体育の授業を通して、基礎体力の向上だけでなく、誰とでも運動を楽しむ主体性や、相手を思いやる気持ち、勝敗を受け入れる態度、ルールを守る公正さなどをこれから身に付けていくことが必要だと考える。

(2) 題材観

年度当初にオリエンテーションで行ったドッジボールでは、一部の生徒のみがボールを操作できるものの、半数以上の生徒は味方にパスやキャッチをする技能が未熟で、ルールの理解の不十分さも加わって集団競技を楽しめていなかった。そこで前期には、「シュートゲーム（的あて）」を取り扱い、投動作の粗形態の獲得と一定のルールで競技を楽しむことをめざした。数メートルの距離に設置した的には、意識できていれば全員が上投げで当てられるようになったが、投動作の定着、飛距離、コントロールといった面が課題として残った。また、題材終盤には防御者を設定したが、攻撃側の生徒が正対する防御者に対して移動するよ

うに口頭で指示する場面が何度もあった。防御者をかわして攻撃する動きの知識や技能の指導までには至らなかった。

このような学習経験をふまえ、本題材では特別支援学校学習指導要領における、保健体育の8領域の中から「E 球技」のゴール型として「ポートボール」に取り組む。この数年間、新型コロナウイルス感染防止のため、集団での競技経験がとても少ない本グループの生徒たちにとっては、ポートボールに初めて取り組む生徒が大半である。その分探求心をもって「わかった」「できた」という経験をたくさん増やすことができると考える。本題材で特に養いたい資質・能力は以下の四点である。

一点目は、投動作のさらなる上達と捕球動作の獲得である。また、ボールを持たないときの動きを攻防の中で実践しながら学んでほしいと考える。このような知識と技能の向上は、ポートボールの面白さを増すと共に、他の球技種目においても基盤となり今後の題材を幅広く受け入れ、楽しめると考える。

二点目は、友達との関わりである。ゴールが人になることで、得点するためにはシューターとゴールマンの少なくとも二人の関わりが必ず生まれる。相手がキャッチしやすいようにパスやシュートをするためには、パスの方法やボールの速さ、狙う位置など思いやりの心が必要になる。相手を意識して見ることで、ボールを介して関わりを繰り返すことは友好的な関係を築く一助となる。また、シュートの飛距離が数メートルの生徒でも得点できる可能性があることで、誰一人取り残すことなく得点の喜びを感じられることが期待できる。友達と協力してパスをつなぎ、シュートが成功した達成感をチーム全員で共有することは何物にも代えがたい経験となるはずである。

三点目は、攻防をかけひきしたり、勝敗を競うことを楽しんだりするためには、ルールを守る公正な態度が必要である。簡単なルールを設定し、友達と仲良くゲームができるように自分の感情や行動を統制する能力も身に付けさせたい。

四点目は、生徒が自分やチームの課題を見つけ、ルールを工夫したり課題を解決する方法を見つけたりできる思考力や判断力である。得点するためにはどのようなシュートが良いか、ボールを持っていないときにどこに動けばパスがつながるか、どのルールにすればみんなが楽しめるかなど考えたり判断したり実践してみたりする経験を通して学ぶことができる。発達段階や運動能力に差がある集団だからこそ、お互いの存在や価値観の違いを認め合い、多様性を受け入れて一緒に喜びや楽しさを共有することができる機会としたい。

(3) 指導観

題材の最終目標は、チーム全員が得点する喜びを共有することとする。まずは、得点するために必要な基本技能の習得練習を準備運動として毎時間取り入れる。ボール操作の苦手な生徒でも「できそう」と感じて取り組むことができる内容を教員が示範し、模倣するように促す。例えば、自分が投げたボールが落下してくる間に一回手を叩いてから捕球などの動きで、示範を注視し視覚情報を整理した上で、身体イメージを働かせる協応運動につながる。一人でできる運動から二人組でのパス練習に移行し、相手を意識しながら捕球動作が体得できることを目指す。捕球動作を怖がる生徒には柔らかいボールを準備したり、バウンドパスから練習したり意欲を保てるように配慮する。次に、全員がルールを守ってゲームを楽しんだり喜びを感じたりできるように、簡単なルールを設定する。はじめはシューターとゴールマンの二人でのシュートゲームから始める。ゴールマンのエリアは円形とし、360度どこからでもシュートが狙えるようにすることで成功率を上げ、意欲を喚起する。シュートが成功した際には、シューターとゴールマンの両者を称賛することで喜びを共有できるようにする。全員が得点の経験ができたなら、生徒の実態に応じてルールを発展させる。ボールの操作が上手な生徒だけがドリブルで突破しシュートをして楽しむのではなく、全員がボールに触れることができるようパスだけのゲームを多く取り入れる。ガードマンを加えた場合には、順番や攻守の違いが分かりやすいように攻守交代制とするなどルールを共有できるようにする。発展したルールに変更しても浸透しやすいようにチームや役割に合わせてビブスを着用したり、ゴールマンとガードマンのエリアにはマーカーを置いたり、視覚的にわかりやすく環境を工夫する。この題材を通して、ガードマンの技術面においては指導しない。まずは攻撃側の成功体験をなるべく多く経験できるようにし、楽しさや意欲につながることを優先する。

生徒の見方考え方を働かせることができるように、生徒が個人やチームの課題を考え解決する過程を大切にす。良い動きや課題を見つけられるように具体的に発問してから実践を促すようにする。空いているスペースに走りこむなどよい動きができていれば即時称賛したり、その場でもう一度再現させて全員に紹介したりすることで、良い例の理解を深め

価値付けられるようにする。「空いている」という概念の理解が難しい生徒には、タブレットでの録画機能を活用し、攻防者の位置関係がわかりやすい場面で静止画にして発問したり、再現者に同行するように促し、見るべきポイントを実際にその場で注目できるように支援したりすることで、気づいたことを発表し合う時間を設ける。球技はボールを保持したときも保持していないときにも、瞬時の判断が次々と求められる。様々な攻撃方法の中から意図して自己決定できるようになってほしい。その答えに絶対的な正解はない。正解のない中で自分と違う見方や考え方に触れることは、多様な価値観を受け入れながら学び合う機会になると考える。ふりかえりには毎時間タブレットのアンケート集計システムを使い、課題の集約を効率的に行う。生徒自身が活動や学びに向き合えるように、知識の確認や目標の評価、気づいた点などの設問に文字だけでなくイラストを加えたり、選択肢を用意したり配慮する。「できた」「できなかった」だけでなく、改善点を意識して次時に取り組んだり、「できるようになりたい」「これはできなかったけれどあれならできそう」といった思いの変化や内面の育ちを引き出せるような丁寧な見取りと関わりを心がけて対話を大切にする。本題材の経験がグループ内での絆を深め、今後の豊かな学校生活につながることを願いこの題材に取り組むこととした。

4 題材の目標

- (①「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「学びに向かう力、人間性等」)
- パスやキャッチの技能、ボールを持たないときの動き方を身に付ける。(①)
 - パスやキャッチのポイントや、ゲームのルールを知る。(①)
 - 良い動きを見ついたり、ルールを考えたりする。(②)
 - 自発的にゲームに参加しようとしている。(③)
 - ルールを守り、勝敗にかかわらず結果を受け入れる。(③)

5 題材の評価規準

- (①「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」)
- パスやシュートをしたり、キャッチしたりするためのポイントを、選択肢の中から選ぶことができる。(①)
 - 味方にパスしたりキャッチしたりし得点することができる。(①)
 - ゲームのルールを言うことができる。(①)
 - ボールを持たないときに空いているスペースに動くことができる。(①)
 - 良い動きやみんなが楽しめるルールを考え記述したり発表したりできる。(②)
 - 自発的に身体を動かし、ゲームに参加しようとしている。(③)
 - ルールを守り、勝敗にかかわらず自他のチームに称賛の拍手を送ろうとしている。(③)

6 指導計画(全12時間)

- ・バスケットボールを使ってみよう…3時間
- ・ポートボールを知ろう(ルール、シュート、パス)…3時間
- ・パスゲームをしよう…4時間(本時4/4)
- ・ポートボール大会をしよう…2時間

7 本時の目標

- (①「知識及び技能」②「思考・判断・表現」③「学びに向かう力、人間性等」)

生徒	個人の目標
ABFGIJK	○ゴールマンかシューターとして得点することができる。(①) ○勝敗にかかわらず、自他のチームに称賛の拍手を送ることができる。(③)
CDEHL	○ボールを持たないときに空いているスペースに動くことができる。(①) ○良い動きを見つけ記述したり発表したりすることができる。(②)

8 本時の展開

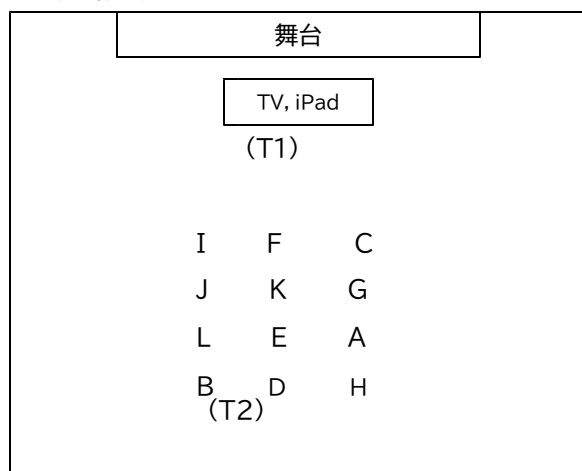
時間	学習活動	支援の手立て		学習活動における 評価規準	評価 方法
		T1	T2		
1分	1 始めのあいさつをする。	・授業を開始することを伝え、姿勢を正すよう言葉かけをする。 ・号令係を呼名し、あいさつをするよう言葉かけで促す。 ・一人ずつ呼名し、体調確認を行う。	・号令に合わせて姿勢を正すことができているか見守る。姿勢が正せていない場合は正すように促す。	・姿勢を正し、号令に合わせてあいさつをする。(全員) ・姿勢を正し、呼名に対し返事をする。(全員)	観察
2分	2 本時の活動内容を確認する。	・iPadを操作して本時のスケジュールをTV画面に提示し、活動内容を説明する。	・画面やT1に注目できているか見守り、注目できていない場合は言葉かけをする。	・画面やT1に注目し、説明を聞く。(全員)	観察
3分	3 ボール運動をする。	・体操の隊形に広がるよう号令をかけ音楽を流す。 ・舞台上で示範する。必要に応じて注目を促すなどの言葉かけを行う。	・示範に注目し、模倣できているか見守る。必要に応じて注目を促す言葉かけや身体的ガイダンスで支援を行う。	・示範の動きを真似て、運動をする。(全員)	観察
4分	4 パス練習をする。	・チームごとに分かれ二人一組になって整列するよう促す。 ・パス練習のポイントを示範し、笛で開始と終了の合図を出す。 ・右コートを中心に見守る。 ・両手でキャッチするなどポイントを意識してパスができているときは称賛する。	・左コートを中心に見守る。必要に応じて言葉かけなどの支援を行う。 ・両手でキャッチするなどポイントを意識してパスができているときは称賛する。	・指示を聞いて両手でパスをしたり、キャッチしたりする。(全員)	観察
	(水分補給)	・水分補給をするよう言葉かけをする。	・水分補給ができているか見守る。		
5分	5 今日の目標を確認し、準備する。 ピンクチーム…BCGIJL 水色チーム…ADEFHK	・ゲームのルールをWBに掲示する。 ・個人の目標をWBに提示する。 ・チームごとにゴールマンとガードマンの担当を決める。 ・安全に留意し、リーダーを中心に協力して準備するよう指示する。 ・右コートのピンクチームを中心に安全に準備できているか見守る。 必要に応じて支援する。	・WBやT1に注目できているか見守る。 ・左コートの水色チームを中心に安全に準備できているか見守る。必要に応じて支援する。	・自分の役割を確認して、安全に準備を行う。(全員)	観察
15分	6 ポートボール(パスゲーム)をする。 前半5分 休憩4分 後半5分 結果発表1分	・チームごとに並び、ゲーム前後の挨拶をするよう号令をかける。 ・タイマーをセットし、開始と終了時に笛で合図を出す。 ・右コートを中心に審判を行う。 ・ルールや順番を守ってプレーできているか見守る。 ・意欲的に取り組んでいる時は称賛する。必要に応じてプレーの選択肢を提示するなど、支援する。 ・前半終了時と後半終了時に得点を発表し、称賛する。	・T1の指示通りに挨拶やゲームのスタートができているか見守る。必要に応じて支援する。 ・左コートを中心に審判を行う。 ・ルールや順番を守ってプレーできているか見守る。 ・意欲的に取り組んでいる時は称賛する。必要に応じてプレーの選択肢を提示するなど、支援する。	・ゴールマンがシューターとして得点する。(ABFGIJK) ・ボールを持たないときに空いているスペースに動くことができる。(CDEHL) ・勝敗にかかわらず、自他のチームに称賛の拍手を送ることができる。(ABFGIJK)	観察
2分	7 片付けをする。	・チームで準備したものを安全に留意して片付けるように指示する。 ・右コートを中心に安全に片付けができているか見守る。	・左コートを中心に安全に片付けができているか見守る。必要に応じて支援する。	・安全に片付けを行う。(全員)	観察
7分	8 本時の振り返りをする。	・本時の振り返りアンケートのQRコードをTV画面に提示する。 ・iPadでQRコードを読み取り回答するように言葉かけをする。 ・Aを中心に見守る。 ・アンケートの回答をプレゼンし成果を共有する。 ・本日のMVP賞とGoodjob賞をT2と一緒に発表し、称賛する。	・Bを中心に見守り、iPadでアンケートに回答できているか確認する。 ・本日のMVP賞とGoodjob賞を発表し称賛する。	・本時の授業について振り返り、回答する。(全員) ・良い動きを見つけ記述したり発表したりする。(CDEHL)	観察
1分	9 終わりのあいさつをする。	・次時の活動内容を伝える。 ・怪我の有無、体調の確認をする。 ・号令係を呼名し、あいさつをするよう言葉かけで促す。	・T1に注目できているか見守る。 ・姿勢が崩れている場合は、整えるよう言葉かけで促す。	・姿勢を正し、話を聞く。(全員) ・号令に合わせてあいさつをする。(全員)	観察

9 準備物

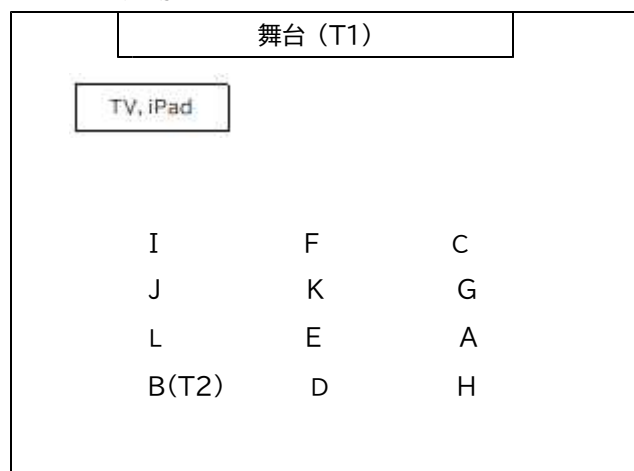
教材	笛、iPad、TV、HDMIコード、タイマー、延長コード、ルール掲示物、得点ボード、表彰カード
用具	マーカー(整列用3、ガードマン用24)、コーン(2)、バスケットボール4号～5号(12)、ソフトフォームボール(1)、ポートボール台(2)、ケンステップ(4)、ホワイトボード(1)、ビブス(ピンク6、水色6、黒2、黄2)

10 環境設定

○整列、振り返り



○ボール運動



○ポートボール(パスゲーム)

